

長門市夜間景観形成 実施計画たたき

1.現状分析

音信川を中心に広がる湯本温泉地区の現状の夜間景観は以下に考察される。

【道路・歩道空間】音信川に面した道路は低色温度のナトリウム灯が使用され落ち着いた印象の夜間景観となっている。

その他のエリアにおいては、暗がりの存在、グレアのある防犯灯などが目立ち、良好な夜間環境とは言えない。

【河川空間・橋梁】エリアの核となる河川空間は民間による時限的な演出が見受けられるが、夜間にビューとなるような特別な演出等はない。橋梁はランドマークとして活かされていない。

【旅館・住宅外観】一部を除き、旅館ファサード等による温泉地らしい連続性のある夜間景観は形成されていない。

住宅の漏れ光なども活かされておらず、寂しい印象がぬぐえない。

【樹木・自然景観】並木や竹藪・住吉神社の木立など、立派な景観資源があるが夜間景観には活かされていない。

■ 雁木広場・千代橋エリア



恩湯前広場や橋上からのビューは、色温度の低いボール照明の点在で情緒的ではあるが、建築物・千代橋・八千代橋の鉛直面の明るさ少なく全体的に暗い印象を受ける。アーチ状の土木構造物も長門湯本温泉にしかない景観資源となりえる。

■ にぎわい創出エリア



千代橋の奥には住吉神社があるが、夜間は樹木が暗がりをつくっている。

■ 桜並木・きらきら橋エリア



川の両側に立派な桜の木があるが、ライトアップ等の演出は現在されていない。

■ 足湯エリア



ナトリウムランプの街路灯は情緒的な温泉地の雰囲気をつくっており良い。夜間の足湯からのビューが不足している。

■ せせらぎ橋河川公園エリア



珍しい木造の橋梁であるが、現在の白色従来光源でのライトアップは、照明の配置などが効果的でない。

■ お地蔵様のかみち



非常に暗く、夜間の歩行は不安感がある。多数あるお地蔵様も現在照明演出はされていない。

■ 路地・歩行空間



路地には古い石積みが多くみられるが、現在は闇に沈んでいる状態。街路灯は白色で情緒に欠け、眩しさが目立つ。

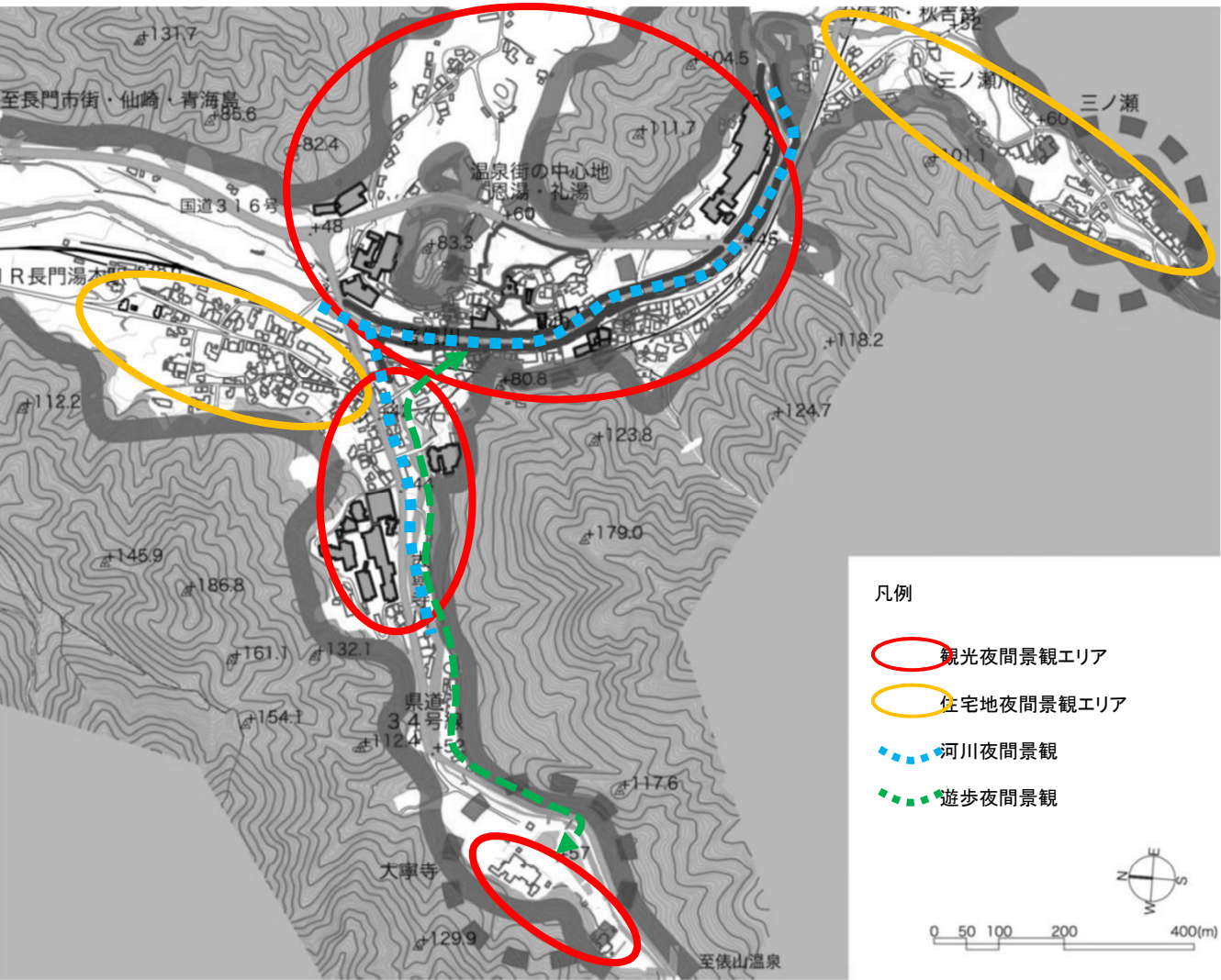
■ 川沿いの建物ビュー



川沿いの建物は夜間には灯りがついておらず、特にそぞろ歩きしたくなるような景観とはなっていない。

2.広域での夜間景観形成方針

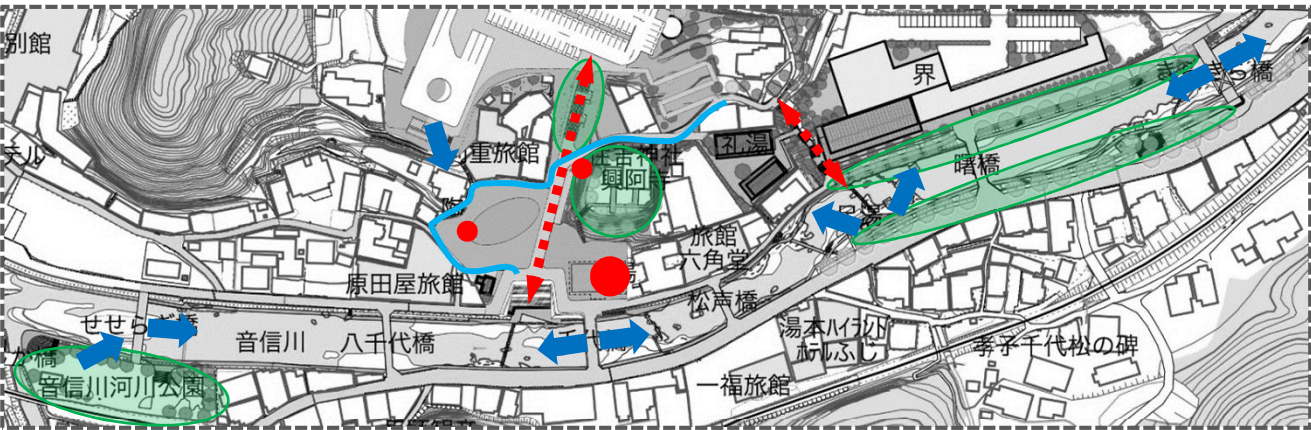
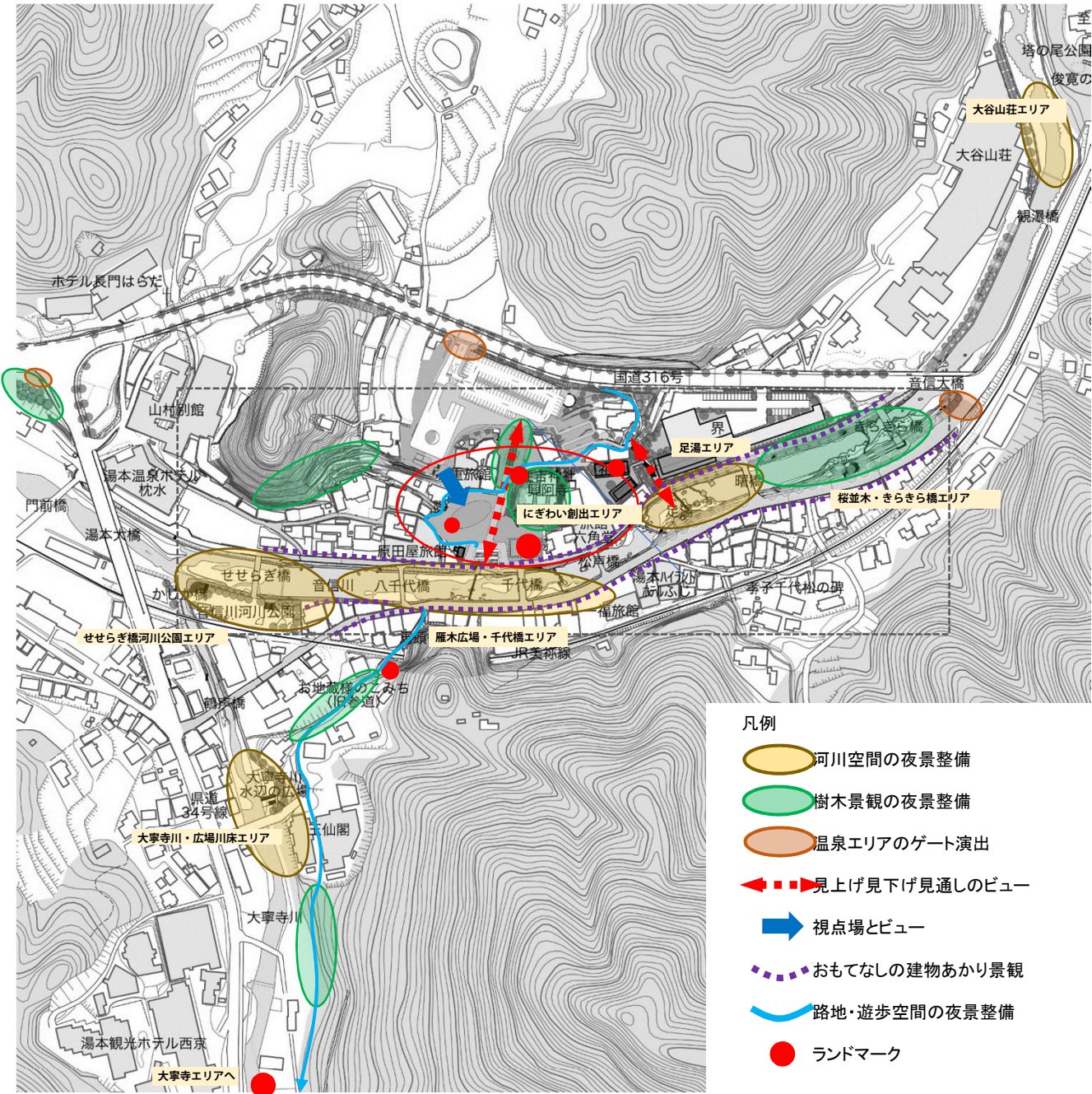
旅館街の集積地である湯本、地場文化産業エリアとしての三ノ瀬、住宅地である門前など
 落ち着いた山間の住宅地夜間景観と観光集客と観光客満足度を高める観光夜間景観をエリアごとに形成することを
 目標とする。



観光夜間景観	住宅夜間景観	河川夜間景観	遊歩夜間景観
<ul style="list-style-type: none"> ・温泉地らしい非日常の情緒を感じさせ、観光客のそぞろ歩きや写真撮影を喚起する景観形成 ・旅行地選択に有効なビューと視点場の整備 ・観光客と住民にとって安全安心な環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉地に隣接する住宅エリアとして、安全安心で良好な夜間景観を形成する ・ランドマークが点在する場合は準観光地として演出し、エリアの魅力形成に活かす 	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉地の河川らしい非日常の情緒を感じさせ、観光客のそぞろ歩きや写真撮影を喚起する景観形成 ・旅行地選択に有効なビューの形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉地のアクティビティとしての遊歩空間の整備 ・地域の物語や歴史を感じさせる仕掛け ・観光客と住民にとって安全安心な環境
<ul style="list-style-type: none"> ・低色温度 ・和の情緒 ・長門湯本らしさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・低色温度 ・窓からの漏れ光 ・暗さを活かす環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木など自然を活かす ・長門湯本らしさ ・明る過ぎない、でも歩ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・低色温度 ・長門湯本らしさ ・自然と営みを活かす
<p>山形・银山温泉</p>	<p>京都東山界隈</p>	<p>兵庫・城崎温泉</p>	<p>高野山奥の院園路</p>

3.湯本エリアでの夜間景観形成方針

旅館街として、広域の観光集客に有効な自然景観やランドマークを活かした夜間景観を形成する。
河川景観や見通しのビューなどに工夫し、和の情緒を基本とする「そぞろ歩きが楽しい」夜間景観を目指す。
公共照明のみならず旅館や住宅からの漏れ光も活用し、観光客にも住民にも安全安心な「長門湯本らしい」夜間景観。



カテゴリー	内 容	内 容
河川空間の 夜景整備	<ul style="list-style-type: none"> ・光源はグレアのない低色温度(3000K以下)を基本とする ・各橋からのビューを意識した河川沿いと河川内の見え方を整える ・河川内(足湯など)からのビューに配慮する ・河川内は歩行の安全安心の確保と同時に、日中景観に配慮した器具選択による陰影のある照明計画とする ・橋梁は夜間のランドマークとなるように計画する ・樹木景観を活かす 	
樹木景観の 夜景整備	<ul style="list-style-type: none"> ・桜並木や竹藪などはライトアップを実施し、そぞろ歩きを楽しめるビューを形成する ・遊歩空間や広場には不安な暗がりをつくらない ・民間敷地の緑もまちの景観資源と考える 	
温泉エリアの ゲート演出	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉街への導入部の夜間の視認性を高め「まちの顔」をつくる 	
見上げ見おろし 見通しのビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・見上げや見通しを意識した、複合的な夜間景観を目指す ・駐車場など高い位置からの見おろしに配慮し、遠景のビューを形成する 	
視点場とビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・ビューのある視点場は、視点場の安全安心や動線のあかりにも配慮する 	
おもてなしの 建物あかり景観	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉地らしい夜間景観は、建物あかりの集積も重要なので旅館や住宅からの漏れ光の色温度や点灯時間などをエリア全体のガイドラインによって整える ・オリジナル提灯の導入など「長門湯本らしさ」を新たに形成する手法を検討する ・各種ワークショップなどによって、官民で目指すべき夜間景観の姿を共有する 	
路地・遊歩空間 の夜景整備	<ul style="list-style-type: none"> ・石垣や地蔵などの景観資源や樹木などを利用し「そぞろあるき」がアクティビティとなるような夜間景観を目指す ・不安な暗がりをなくし、夜間の安全安心を確保する 	
ランドマーク 【恩湯】	<ul style="list-style-type: none"> ・建築の特徴を活かす照明計画によって、夜間にも良好なランドマークとなるように配慮する ・歴史の継承を感じさせる品格のあるライティング ・2800K以下の低色温度を基本とする 	
【礼湯モニュメント】	<ul style="list-style-type: none"> ・重要なモニュメントとして、フォトジェニックなライティングを実施する 	
【大寧寺】 【住吉神社】	<ul style="list-style-type: none"> ・由緒ある寺社として、建物や敷地内樹木を品格のある照明手法で演出し、年間を通じた観光資源として活かす 	
【各橋】	<ul style="list-style-type: none"> ・手すり間接照明や橋梁のライトアップなどを導入し河川景観のランドマークとして活かす 	
【基本事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉地らしい低色温度(3000K以下) ・鉛直面の明るさ感を重視(間接照明) ・落ち着いた夜間景観 ・グレアレス 	